

# 伝えたいメッセージ

## 異なる集落や地域の人たちの連携が必要

### なぜ必要か？

#### 今このような問題が起きている→声とポスター展示

##### 災害において

- 自主防災会同士の教えあいがなく団体によって活動のレベルに差がある
  - 災害時に連携が必要になるから

##### まちづくりにおいて

- 「人がいない」「活動が単独では維持困難になっている」という問題がある
  - 石垣の保存
  - 各集落のサロン活動の参加人数も減少
  - 主要産業である漁業や農業の高齢化し担い手の減少
  - 地域の様々な活動も維持困難に(もし今そうでなくてもこれからそうなるだろう)
  - 祭りの存続

## これからこのような事態が想定される

#### 災害において→our timelineで集落が交じり合う様子を表現しポスターで解説

- 浦浜では孤立により一次避難所での長期的な暮らしが想定される
- 災害の混乱の中指定避難所で異なる集落の人々が共同生活を数か月間強いられる
  - 役場は指定避難所マニュアルを策定予定
- 仮設住宅やみなし仮設により広域避難をする人が出てくる。その場合も異なる集落の人たちが集住することになる
- 復興時に新たな町をつくるということもあるかもしれない
- コミュニティの強化は人の流出を防ぐ。被災後町を出るという選択をする人が出てくる。そのときに落ち着いたら戻ってきたい、なんとかこのまちを再生させたいと思うには強いコミュニティのつながり、「そこにいる意味」みたいなものが必要

## 次世代に寄り添った街づくりが大事

### なぜ大事か？

## 現状→声とポスターの展示

- 若者の居場所がない
  - 図書館建設を却下された
  - 放課後にスーパーのイートインスペースぐらいしか集まれる場所がない
  - かつてはかき氷屋さんとかいろいろあったんじゃないの。それを今の子供たちにも還元するべきでは？
- 若者が活躍できる働き口があまりない。選択肢が少ない
  - 高校卒業後はまちを出る、戻るつもりもないという声
- 将来の町の担い手不足
  - 一次産業の後継者不足
  - 役場に就職した者も今年度はいなかった

## 将来起こるであろう問題→ポスター

- 30年後には高速道路が開通
  - 「素通りされないまち」でありつづけるためには
  - そのころのまちを担うのは誰？？
- 復興は長期的なスパンで行われる
  - そのときの町の主力メンバーは今のこどもたち

## 若者の強み

- それほど旧町村の意識はないので地域の壁を越えた交流のきっかけに
- 高い防災リテラシーで防災～復興において活躍
- 「子供のためなら」「若者のためなら」と動く大人は多い

## 提案→ポスターと模型，動画で説明

### 背景

- 公民館や集会所が非常に多い(旧町村の名残)
  - 集落間の交流が生まれにくい
  - 年間2億もの維持費がかかっている
- 若者の居場所がない/町全体，多世代の交流拠点もない

### 概要

- そこで，**公民館を集約する代わりに浮いた維持費で広域交流型図書館を建設する**
- 広域拠点をまちてらす，集約型公民館をまちかど

- それ以外の集会所(=「まちあい」?)については基本的には現状維持?
  - 集会所は使用時以外カギがかかっているのもよりオープンな場としてバス停の整備
  - 集会所を廃止することによって何か公的なお金が浮けばいいのだが
    - すでに自治体持ちになってるからなー
    - ただ施設の老朽化という話はあると思う。新しくするかなくしてしまうか。
- これらの拠点施設を貨客混載のバスによって結ぶことにより物流を支える

## 課題

- 公民館の集約だけでは図書館の建設費・維持費は賄えないのではないかと
  - 公民館の維持費自体宅配業者や直売所の出展料などで賄えるようになるとなおよい
- 生業の存続や若者の雇用など産業に関する提案も何かあったほうがよさそう
- つべつギルド的な枠組みをつくってもいいかもしれない(「人が足りない」という問題)
  - お互いの困りごとを解決するプラットフォームの提案
  - 助けてあげるとポイントがもらえるような仕組み
  - 社協がやってる重層的支援体制みたいなイメージ
- 人の交流は良いが、ハブとバスの組み合わせが発災～復興までどのように機能するかも考える

## 展示

### 目的

- 一番大事なのは我々が伝えたいメッセージを理解してもらうこと
- メッセージをただ理解してもらうだけでなく、その理解を具体的なレベルまで落とし込む(それが大事なことはわかったけど、じゃあどうすればいいの?のレベルまで落とし込めると議論ができる。議論のたたき台としての提案)
- 事前復興計画策定に向けて住民の意向調査としても使えるのではないかと

### 概要

- **問題意識の共有(ポスターや模型と声の活用)→我々の提案(ポスターと模型、動画でもいい)→選択肢の提示(ポスターにシールとアンケートBOX、ここも声でもいい)の流れ**
  - 8月のブースもこれの縮小版?
  - 声は8月とってくる
- **サブ展示として写真館と看板ワークショップ**
  - これは8月に防災フェスのブースとインタビューで確実に取ってくる
  - それに加えて分散展示で集める

- 「未来に残したい風景」というテーマに設定すれば「未来」を担う「次世代」に思いを馳せ、風景を通じて「他地域」を知るきっかけになる

## 問題意識の共有

- 「問題意識」をどう伝えるかが大事
  - これまでは他地域・他世代の声を流すことによってそれを認識してもらうという予定だったが
  - 伝えたいことってもう決まってるのでは??? と思った!
  - 声を流すのだとしたら、生じている問題によって不利益を被っている人がいるはず。その人たちの声を流すほうが効果的なのではないか? その場合こちらであらかじめインタビューできるはず。

## 提案の提示

- 提案をどう伝えるか
  - 基本的にはスタッフが常駐して説明する形になると思う
  - 説明の手段としてポスター・模型
  - もし可能なら動画を作って流せるとわかりやすい

## 提案の議論

- 問題意識や提案を踏まえて、具体的にどのような形なら納得できるかアンケート
  - **公民館を集約すればするほど公的資金が浮いて豪華な図書館を作ることができる**というような問いの設計にして最も納得できる選択肢に世代別の色のシールを貼る
  - アンケートでその理由や、問題意識や提案それ自体に対する意見を求める
    - ここでも意見を声という形で流してもいいかもしれない
    - まず自分で考えて結論を出していただき、貼られているシールや声を聞いて最終的にどこにシールを貼るか決定する
    - 「はじめこう思ってたけどこういう意見を聞いてこう変わった」というのもアンケートで拾う

## 写真館

- ここまでだと意識高い人メインにはなりそう...
- メインとしての展示が存在する一方で、展示に足を運びたいくなるようなコンテンツも重要
  - 「写真展『未来に残したいふるさとの風景』」
    - 写真も大事だけどエピソードをいっぱい聞き出してこちらで写真を撮りに行くのもいい
    - 現地調査や大岡さんの写真もたくさんあるので、それを使うのもよし

- (まあ、余力があればお気に入りの場所をピン刺ししてもらうのもいいかもね)

## ワークショップ

- 感想を色紙に書いて「AINAN」の看板を完成させる